

特 許

(昭和42年度)

日 本 特 許

土 壤 殺 菌 剤

登 録 第49277号 昭和42年4月12日

公 告 昭41-19199 昭和41年11月7日

発 明 者 迫村寿男, 角田 博
井上 実, 高尾忠行

特許請求の範囲

1 モノプロモアセトニトリルを有効成分として含有することを特徴とする土壤殺菌剤。

エチレンのオキシクロロ化法

登 録 第492835号 昭和42年4月22日

公 告 昭41-19682 昭和41年11月15日

発 明 者 井沢正一, 早田正明, 久富義弘

特許請求の範囲

1 塩化水素と酸素または空気を用いてエチレンをオキシクロロ化するにあたり、銅塩と Pd 塩とりん酸塩または/およびりん酸を主成分とした触媒系を多孔質担体に吸着担持させ、200°C から 400°C の反応温度範囲において反応させることにより、塩化ビニル、1, 1-ジクロロエタン、1, 2-ジクロロエタンを主成分とするエチレンの塩素化物を得ることを特徴とするエチレンのオキシクロロ化法。

ブタジエンの低重合体の製法

登 録 第501351号 昭和42年9月25日

公 告 昭42-4332 昭和42年2月22日

発 明 者 井沢正一, 小野 勲, 木原啓一

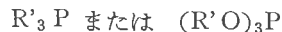
特許請求の範囲

1 ブタジエンの環状二量体あるいは環状三量体を得ることを目的として、ブタジエンに一般式



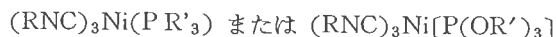
(ただしRは置換基を有しもしくは有せざるアリール基を表わす)

で示されるイソニトリルニッケル錯体と一般式



(ただし R' は置換基を有しもしくは有せざるアリール基あるいはアルキル基を表わす)

で示される電子供与性物質とを、またはこれらイソニトリルニッケル錯体と電子供与性物質との反応によって生ずる一般式



(ただし R と R' は上述のものを表わす)

で示されるニッケル錯体を作用せしめることを特徴とするブタジエン低重合体の製造法。

土 壤 殺 菌 剤

登 録 第505453号 昭和42年11月27日

公 告 昭42-12766 昭和42年7月20日

発 明 者 迫村寿男, 角田 博
井上 実, 高尾忠行

特許請求の範囲

1 一般式 $\begin{matrix} \text{R}^1 \\ \text{R}^2 \end{matrix} > \text{CBr} \cdot \text{CHBr} \cdot \text{CO} \cdot \text{R}^3$ (式中 R¹ はメチル基, トリクロルメチル基またはフェニル基を、R² は水素またはメチル基を、また R³ はメチル基またはフェニル基を示す) にて示される化合物の一種または二種以上の混合物を有効成分として含有することを特徴とする土壤殺菌剤。

炭化水素のオキシ塩素化用触媒組成物

登 録 第509145号 昭和43年1月24日

公 告 昭42-17198 昭和42年9月11日

発 明 者 井本利一郎, 小坂勇次郎, 早田正明

特許請求の範囲

1 常温において液状またはガス状のモノオレフィン系炭化水素を塩化水素および酸素または酸素を含むガスでオキシ塩素化する反応に適した触媒組成物にしてアルカリ金属、およびアンモニウムの重硫酸塩の単独または2種以上と CuCl₂ と、La, Ce, Th の塩化物の1種または2種以上との複合塩または複合混合塩が多孔質担体に吸着されており、かつ上記の重硫酸塩の総量と塩化第二銅のモル比が0.1~10の範囲にあり、さらに La, Ce, Th の塩化物総量と CuCl₂ とのモル比が0.01~1.0の範囲にあることを特徴とする低温高活性の触媒組成物。

モノオレフィン類の重合方法

Mitsuo Kikuchi
Hiroshi Shimizu登録 第511343号 昭和43年2月20日
公告 昭42-16053 昭和42年9月2日発明者 井本利一郎, 小坂勇次郎
小原 百門, 藤田 宜宏

特許請求の範囲

1 一般式MSRで表わされ、Mはナトリウム又はカリウムであり、RSは炭素数1~12ケを含むアルキル基よりなるメルカプト基であるメルカプチドと四塩化チタンのモル比0.5~4.0の範囲で反応を行わせて得られる固体生成物とトリアルキルアルミニウム若しくはアルキルアルミニウムハライドとの組合せ触媒において、前記固体生成物中のチタンに対してトリアルキルアルミニウム若しくはアルキルアルミニウムハライドのモル比0.5~4.5の範囲よりなる触媒の存在下でモノオレフィン類を重合させ高度の結晶性を有し、極めて精製し易い高分子量重合体を得ることを特徴とするモノオレフィン類の重合方法。

塩素化炭化水素の電解フッ素化方法

登録 第511364号 昭和43年2月20日
公告 昭42-17002 昭和42年9月9日発明者 井沢正一, 迫村寿男
木佐木尚, 真淵俊介

特許請求の範囲

1 液体フッ酸中にて飽和低級塩素化炭化水素を電解して低フッ素含有化合物を製造するにあたり、少なくとも20A/dm²以上、陽極電位の急増を来すまでの電流密度範囲において電解することにより、分子内のフッ素含有量少なる化合物を製造することを特徴とする飽和低級塩素化炭化水素の電解フッ素化方法。

米 国 特 許

PROCESS FOR REFINING PHOSPHORIC ACID PREPARATIONS

U. S. P. No. 3,342,549
Patented Sept. 19, 1967

Toshio Sakomura

Having thus disclosed the invention what is claimed is:

1. A process for removing iron and arsenic from crude phosphoric acid, which comprises charging said crude phosphoric acid with hydrochloric acid, mixing strongly basic anion exchange resin with the resultant mixture, separating the strongly basic anion exchange resin containing substantially all the iron impurity and part of the arsenic impurity from the partially purified phosphoric acid mixture, and concentrating said partially purified phosphoric acid mixture by evaporation, thereby removing substantially all the hydrochloric acid and remaining arsenic by evaporation to produce concentrated phosphoric acid.

2. A process according to claim 1 wherein the mixture of phosphoric acid and hydrochloric acid contains phosphoric acid and hydrochloric acid in concentrations falling within the area bounded by the lines connecting the points C, D, Q, P, and R as shown in the appended drawing.

CATALYST COMPOSITION FOR OXYCHLORINATION OF HYDROCARBONS

U. S. P. No. 3,332,885

Patented July 25, 1967

Riichiro Imoto
Yujiro Kosaka
Masaaki Hayata

What we claim is:

1. A catalyst composition consisting essentially of an inert porous catalyst carrier having absorbed thereon a mixture of (1) cupric chloride and (2) a member selected from the group consisting of alkali metal bisulfate, ammonium bisulfate, and mixtures thereof, the molar ratio of component 2 to component 1 being 1:0.1 to 10.

2. A catalyst composition consisting essentially of an inert porous catalyst carrier having absorbed thereon a mixture of (1) cupric chloride, (2) a member selected from the group consisting of alkali metal bisulfate, ammonium bisulfate, and mixtures thereof,

and (3) a member selected from the group consisting of lanthanum chloride, cerium chloride, thorium chloride, and mixtures thereof, the molar ratio of component 2 to component 1 being 1 : 0.1 to 10 and the molar ratio of component 1 to component 3 being 10 : 0.1 to 1.0.

ド イ ツ 特 許

**VERFAHREN ZUR HERSTELLUNG VON
PHOSPHORSÄURE**

G. P. Nr. 1,235,869
Ausgabetag. Oktober 5, 1967

Riichiro Imoto
Toshio Sakomura
Mitsuo Kikuchi

Patentanspruch :

Verfahren zur Herstellung von Phosphorsäure durch Aufschluß von calciniertem Rohphosphat mit Salzsäure, Extrahieren der Aufschlußlösung mit einem organischen Lösungsmittel und Gewinnung der Phosphorsäure aus dem organischen Extrakt, dadurch gekennzeichnet, daß das Rohphosphat vor dem Aufschluß mit der Salzsäure bei 700 bis 875°C bis zur Erreichung eines restlichen CO₂-Gehaltes von 0.6 bis 1.6 Gewichtsprozent calciniert und der bei der Extraktion der salzsäuren Aufschlußlösung erhaltene organische Extrakt mit Wasser extrahiert und die dabei erhaltene verdünnte Phosphorsäure konzentriert wird.